

國民學校の實施を前にして

富士見小學校長
同 幼稚園長

武藤光太郎

待望の國民學校、全國初等教育者の一大關心事である國民學校の實施期も追々目睫の間に逼つて來たので、何れの學校に於てもそれ〴〵熱心な研究を周到な企劃に専念されつつあるを信するが、此點に就ては國民學校姉妹學園である幼稚園に於ても同様のことを思ふ。

兎に角今回の國民學校案は初等教育に於ける劃期的な革新案であり、教育界の新體制でもあるから、私共第一線に立つ教員や保姆としては奮然起つて、此新制度の體認者となり躬行者となるの覺悟がなければならぬと思ふ。申す迄もなく如何なる立派な案も萬全を期した計畫も機構も、結局は私共實際家の手に依つて實施するのであるから、吾々の心構を熱心力に一切の期待が懸けられて居る事に想到する時、此の制度を生かすも殺すも全く私共の雙肩にあると言はねばならぬ。斯様に考へて参ります。實施に先立つて第一に取り上げたい問題は教師自身の事である。

人生觀の立直し

ご申すご大變仰々しい言葉であるが、今日迄の知識階級

とも言はるる人々の頭は深かれ淺かれ廣かれ狹かれ多かれ少なかれ、歐米の思想や哲學の上に建設された思想であり文化であり生活であつたと思ふ。就中我教育界は如何に彼等歐米の主張を無雜作に攝取したか、大正から昭和に互つての教育説の簇出當時を回想するに彼のブツデやリンデの人格主義を高調したり、ケルシエンシユタイナーの勞作教育を持嚙したり、自由教育に隨喜の涙を流したり、ダルトンの新奇を追つたり、眞に賑はしたものであつた。その中には所謂教育の大家なごも相當リーダーになつて居られた様である。そして遂最近までそれ等の流れを汲み、それ等の思潮を基礎として經營された新教育なるものも存在して居つたが、それ等も底を叩くに大方はバタ臭い教育であつた。私は思ふ。

要するに最近までの教育は、歐米哲學に根ざした人間學又は人間の教育學の上に抽象的な一般論を振擧して來たものが多いのだから、今回の國民學校制度の實施を契期として、今日迄の教育を清算して純然たる日本人の思想感情

意欲行動に立脚した、言はば一本のスフも交らない、皇國の道に則つた人生觀の樹立を私は望ましく思ふのである。

案を素直に受け入れたい

皇國民としての人生觀が全國の教員や保姆に確立すれば、新制度は一度の講習で國民學校の精神が把握されるに信するが、ここに注意したい點は素直に取り入れて欲しい事である。ご申すのは今日迄の習癖で物事を素直に攝取受收する修練が、我教育界の人々には出來得ないからである。勿論靜思し審問し辯明し盡して、採長補短の道を講ずることには必要ではあるが、徒らに批評し批判に時を費やし、素直に受入れる我量に乏しかつた教員生活から考へて、先づ從順に新制度を迎へて欲しいのである。

既に國民學校案に對し兎角の批判を聴くが私は誠に遺憾千萬に思ふ。勿論私共實務家から觀れば多少の缺陷はないでもない。斯ふもありたいと思ふ部面はあるが、國體に發して國體に歸一する教育の最高理念は皇國本來の教育軌道であつた筈である。それが今日迄の教育は教育勅語の御精神に則るなごご看板だけは掲げて來たが、實體の教育は歐米の模倣教育であつたのだ。之が形態的にも實體的にも日本自身の手によつて立派な母胎である國體から誕生したのであるから、小問題を捕へて批判がましいことは嚴禁したい。若し多少の缺陷ありごすれば、そこは實際家だ、お互

の取扱の上で缺を補ふて案の大精神を生かし、日本教育の建設に精進すること教育者たるものの任務でなければならぬ。況んや既に出來上つた案であるから、ごごまでも之を完璧完全なものとして之に隨喜隨順して、素直に受入れる態度であつて欲しいのである。

案の特性を掴む

新制度を生かすには案の特質性格を究めて早く之を把握することである。ご申して私は今この紙面で國民學校の特質を詳述する違はないが、素直に之を迎へれば案の精神は水の低きに流れる様に、求めに應じて素直に這入つて來るので、自ら其の特質も掴めることご信するが、ここに其特質を掴むに根本なる示唆的方向ごも言ふ可き點を申すならば、一切を最高理念へ歸一する性格が中軸となつて居ることである。而してその理念は國體の本義を顯揚し、之を擁護し、之を強化擴充し、之を生々發展せしむると同時に、大和の精神を以て國體の中心たる皇運を扶翼し奉る忠良なる國民の育成にあるのである。

隨つてこの歸一性が統合的一體觀を生み、一體觀は全一的活動の實踐性を強調し、實踐性は生活即應の教育となり、生活に即するが故に實際的であり具體的であらねばならぬご言つた特性が、自然に色濃く盛られて來た。

更に修練が強化され、健體ご情操ご職域奉公ごが重視さ

れて来たことも、要は國家隆昌の根元を培ふ皇運扶翼への歸一性に誕生するものであると信ずる。然も之等の性格的方向は既に吾等の先祖が傳承し實行し來たつた道であり、大和民族の生活姿態でもあつたのだから、言はず新體制が億兆一心を説き、臣道充塞を強化し、職域奉公の復古的精神の振勵を目指して居ると同様に、國民學校も我國固有の教育の姿に復古したものと云つても宜敷いと思ふ。

斯うした氣持で案を調べ研究の歩を進むるならば、國民學校の特質を立派に擱み得ると思ふ。

幼稚園の使命

何日の時代に於ても幼児の教育を疎かにしてはならないが、今の時代の如く切實に幼児教育の重要性を萬天下の人々に強調されつつある時代は又さ無からうと私は考へてゐる。

ところが其必要性を説かれる割合に、國家に於ても社會に於ても教育界に於ても家庭に於ても、それ等の強調を主張に伴ふ程の施設と心構の乏しきを遺憾に思ふ。そこで私は國民學校の誕生を機會に、幼稚園の劃期的な發展を企圖して萬天下の識者に訴へ、之が重要性を如實に實踐に移されんことを切望して止まないものであると同時に、教育の内容に於ても今日迄の文化的羅列主義の教育から脱脚して、國民學校の精神に則り國體に對する敬虔なる心情を養

ふことに重點を置き、日常生活に於ける正しい習慣を修練すると共に、丈夫な體の子供を育てる點に努力することが大切であると思ふ。そして團體生活の基礎訓練を漸次養つて、國民學校入學の身體的精神的の準備とする。勿論準備のための教育ではないから、教科の指導なきに餘り意を用ゆる必要ない。要は家庭生活や幼稚園の生活を通して明るい性格と健康な體を養つてやれば幼稚園の目的は達せられると考へるが、何んと言つても幼稚園は家庭教育の基礎の上に經營せねばならないから、子供等の家庭生活の實相を擱み、其の缺を補ふ施設と指導とに留意し、更に社會面から、幼児の心身を害ふであらう一切の弊害を除去する使命もあると思ふ。要するに幼稚園の教育は家庭と學園との同行であり連帶であり、共同教育であると言つた考へで賡々することに肝心である。何んとなれば幼児の生活は大部分家庭の生活であり、彼等の靈肉は家庭を苗床として母胎として生長するからである。

そこで園長や保母は幼稚園独自の教育を確立することに、現代に於ける家庭教育の長短を研究し、家庭をして最も立派な賤の道場たらしむる指導を講ずると共に、家庭の缺を充塞する幼稚園の施設を考へて、よい日本の子供としての基礎工作に遺漏なきを期すべきである。

家庭への要望

國民學校は皇國の道に則つてよい皇國臣民を育成するこゝを主眼とするものであるから、今後の家庭教育に於ても此の精神が一層徹底しなければならぬ。左様に考へて來る時、一段父兄に要望したい點は、子供は我が子であると同時に國家の子供であると言ふ意識を深く持つて頂きたいことである。即ち家の寶であると同時に國家の寶であるの認識が大切である。此の見地に立つて我が子の教育を見直すならば、そこから新たな教育觀が生れ、然も其の教育は必然的に國民學校の精神と軌を同じふることと思ふ。今迄の一般家庭に於ては子供を主觀的に眺めた様である。之が子供中心となり我子中心の躰に墮し、その結果放漫な自由な我儘な子供に育てたり、又子供は親の子であるから親の意志で育てる言つた頑固な獨善に落入つたりしたのであるが、子供は國家の寶である言つた考へになれば自らそこに客觀的な教育の規範が必要となつて來て、今回の皇國道に即應する國家の最高規範が、家庭教育に不可缺な問題となつて來る。次に要求したいことは教育の効果を近きに期待してはならぬと言ふことである。近代教育は餘りに目標を近きに求め過ぎた感がある。之がために子供を巧みに走らせ模擬に流れしめ、甚しきは我子の教育を營利事業に資本を投ずる如く考へる父兄さへ生じた。即ち歐米教育の利益本位な利己的な教育に墮せしめた傾向を馴

致した。一言に申せば立身出世主義を幼児の中から鼓舞強要して、大人物になる子供も、教育の目標を近きに求めたため小才士や小懶口な小人物にして終つた憾がある。私は此の點を世の父兄達によく考へて貰ひたい、幼児から餘り賢い子供を目指したり立身出世の教育をする、小さく完成した人間にして終ふ恐れが充分にあることを認識して頂きたい。

此の點に就ては幼稚園の經營でも充分注意を要すると思ふ。父兄の智識欲の旺盛な方に迎合して、幼稚園に入園した効果を早く父兄に知つて貰ふために幼稚園の根本的使命を忘れて、御本を讀ませたり、むづかしい話やニュースを聞かせたり、物を數えさしたりして懶口者を養成することに骨折る學園もないではない。之等は今回の幼稚園の精神は非常に開きのある教育である。幼稚園ではどこまでも健康な子供を育てる點に注意し國民が情操を醇化して「ユツタリ」した子供らしさの豊かな幼児を躰けることが主眼であることに、父兄も充分御理解と御協力を頂きたいと思ふ、序でお願いしたいことは、幼児の教育の最も適任者は父兄自身であると言ふ自覺を持つて頂きたいことである。

之は靜かに考へれば誰でも氣の付くことであるが實際は仲々さうでない。學園に入園する幼稚園委せになつたり、

託兒所に入れるに託兒所委せになつたりする。託兒所の場合は趣きを異にするが、それにしても託兒すれば保姆の責任でもある様に考へることは飛んでもない間違であることを充分承知すべきであり、又その認識を與へる可きである。何んぞ申しても家庭の教育は父兄が中心であり、慈愛の中に團欒しつつ物事に即して臨機應變な指導が出来るので、具案的計畫的ではないが子供に取つては一切體驗的であり、それに學園より社會性にも濃厚であるので、直接間接に社會的訓練をも無意識の間に行はれると言つた様に、父兄の一舉一動が子女の生きた模範となるのであるから、世の父兄は天下の教育者は自分であると言ふ自覺を是非持つて頂きたい。

社會國家への要求

幼児教育の立場から私は社會人に或は要路の方々に此際積極的に要望したい。そして之は吾々幼児教育に關係する者の當然の主張であり要求でもあると信するからである。

世界の情勢は何れの國に於ても人的資源を渴望して止まない。産業界に經濟界に思想界に國防に科學に人材を求むる聲は世界共通の聲である。戰爭の勝敗の如きも極言すれば人口の多少で決せられる。人口の量と質、之が國家隆昌の根源であるを申しても過言ではない。斯う思ふ時、幼児教育の重要さは單に家庭の父母や教師や保姆に委せて置く

譯には行かない。子供の有る人も無い人も、否や子女のない社會人は一層「あれは他人の子だ」なご見過ごして來た今迄の考へを是正して頂きたい。子供は國家の寶である。子供の無い家庭に於ては當然此の國家の共有である寶を眞の寶たらしむるために充分なる關心を持たねばならぬ。

子供のある父兄でも、一度社會人として町に電車に公園に、他人の子供を觀る時の態度は餘りに冷やかでなかつたか？粗末に取扱ひ過ぎはしなかつたか？此の點を社會人に於て深く反省して頂きたい。我國に於ける幼児教育に關する施設、對策の貧困さは、要路の方々の手落もあらうが、國家の寶である幼児に對する社會人の無關心が與かつて今日の狀態に置かして居るを考へる。託兒所の問題にしても、勞働力の少ない時、社會國家のために勞務に従事する人々の子弟を、社會として國家として充分なる施設をして上げることば當然である。之を單なる社會政策の見地から中譯に設置する程度では、社會として國家としても責任を盡したまは言はないと思ふ。私は國民學校の實施に伴つて、幼稚園の重要性が國家的に認められたことを心から喜ばしく思ふと同時に、此際此時竿頭一步を進めて幼児教育に對する識者の猛省を喚起し、近き將來に於ては幼稚園を國民學校に併設して、幼児教育の萬全を期する用意と對策の促進を願つて止まない次第である。